

回棹廊

渉成園の中心である印月池の北の島と池の北岸を結ぶ橋は、古くからこの庭園の見どころとされてきた。現在の橋は 1884 年に架けられたもので、屋根は中国風のデザインに檜皮葺きなどの日本的な要素を加えたものになっている。このような中国と日本の美意識の融合は庭園の随所に見られ、17 世紀に儒学者・詩人・書道家である石川丈山（1583-1672）が手がけたとされるオリジナルのデザインを彷彿とさせる。

橋の中央にある展望台の上の屋根部分には、優雅な装飾的な曲線の破風がある。また展望台の天井には、提灯を吊るすためのフックがある。この提灯は、日没後に庭園を訪れる客のために灯されたもので、客の中には小舟で池を渡り、庭園内の茶室に向かう者もいた。